

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

コロナ禍の中で迎える 75回目の終戦記念日 憲法を守り抜く政治実現を！



副知事に申し入れる尾村県議、松江市議団、舟木市議予定候補ら

尾村利成県議と松江市議団、舟木健治市議予定候補らは7月29日、松尾紳次副知事に対し、河川の流域整備の前進を申し入れました。

7月14日の江の川氾濫で被災した住民から寄せられた要望に基づき、尾村県議は、2年前の西日本豪雨の時と

同日堤防未整備地区が被災した点を指摘し、予算増額を求めました。

大雨被害について、尾村県議、松江市議団、舟木市議予定候補らが県に申し入れ



左から2番目が舟木氏・橋ふみ氏・田中市議、尾村県議・橋市議・吉儀市議

県議・市議団・市議予定候補者 6人が終戦記念日にあたっての決意を語る

8月15日、イオン前にて共産党尾村利成県議をはじめ、橋祥朗・吉儀敬子・田中肇の日本共産党市議団に加え、舟木健治市議予定候補と橋ふみ市議予定候補の6人が、それぞれ自分の思いを訴えました。

吉儀市議は、市議団は、議会では必ず憲法・平和・原発問題をとり上げていることを報告しました。

自分の身内の戦死者2人は、

アンパンマンと朗読劇
舟木健治市議予定候補は、アンパンマンの作者である故やなせたかし氏の生き方から、困っている人に手を差し伸べ、みんなが平和な世の中をつくるための決意を述べました。

橋ふみ市議予定候補は、原爆朗読劇に出演する活動を通して平和の大切さを訴えてきた、生きていてよかったと思える社会になるよう力をつけたいと述べました。

新生児へ10万円支給などコロナ対策で 補正予算・臨時議会開催

8月7日（金）松江市議会臨時議会が開かれ、コロナ対策の補正予算（第5号）並びに、7月31日に専決処分された補正予算（第4号）の2議案が審議され、全会一致で可決、承認されました。

補正予算（第5号）は、市単独事業として、①国の特別

定額給付金支給の対象から外れた新生児（4月28日から来

年3月31日までに誕生）に10

万円を支給、②生活困窮世帯

への生活支援給付金、③プレ

ミアム商品券の発行などの増

額。国の事業として、①住宅

確保給付金の増額、②学校再

開支援（衛生面）事業などで、

総額4億7200万円です。

補正予算「第4号」は、市

単独事業の「商業・サービス

業感染症対応支援事業」費で

す。この事業は、新型コロナウイルス

ウィルス感染症対策として市

内中小業者が取り組む、衛生

面の感染防止策やテイクアウ

ト等の新事業展開を支援する

ために経費を補助するもので、

総額7億4千万円です。

共産党市議団は、新生児は

4月1日誕生までが同学年と

されることを指摘、また、生

活困窮者として学生への周知

徹底を求めるなどを質疑しま

した。

そのうえで、新生児の給付

拡大、生活困窮者や中小業者

への支援の継続拡大などを評

価して賛成しました。